



©TATARA

©Coblinshark

©夢科委員



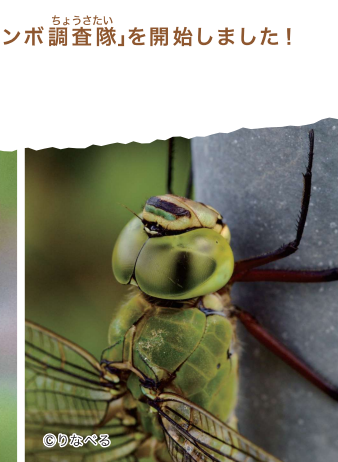
©WbigD



©インガケチヨウ愛好家



©へー



©りなべる



©そらまる



©はらみつ_N

生まれ!トンボ調査隊

Dragonfly Quest

ちょうさ 調査レポート 2025 秋編

ニチアスグループは豊かな水環境が不可欠なトンボをシンボルとして
います。全国で減少しつつあるトンボや生息地の保全に向けて、
日本全国を対象に、みんなでトンボや生息環境の情報を
集める「トンボ調査隊」を開始しました!

ニチアス

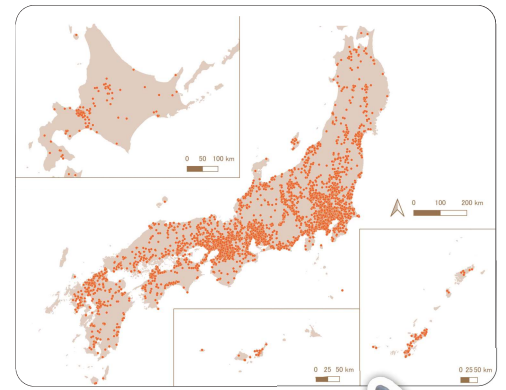


©KEITEN

ちょうさ 調査目的

原材料の調達や製造段階を通じて、ニチアスの事業にとっても必要な資源である「水」。トンボは、そんな日本の豊かな水環境を特徴づけるいきものです。しかし、開発による湿地の減少、土地利用の変化、外来種の侵入、除草剤・殺虫剤の利用、気候変動といったさまざまな要因によって、多くの種が姿を消しつつあります。トンボたちを守るのに必要な「どこに、どんな種が生息しているか」といった基礎的な情報を集めるため、この調査隊を開始しました!

Dragonfly みんなで見つけた! 日本全国トンボマップ



©M.I.TO



© Zeehondenreche

ちょうさ 調査結果

参加した人 **5,169** 人
ミッションコンプリート数 **522** 人
調査期間 2025年9月1日~11月30日

発見した数 発見した種類

トンボ目 **13,548** 件 トンボ目 **148** 種

発見者数

- メインミッション
- トンボを3種投稿せよ! **1,098** 人
- エクストラミッション
- 溪流や河川で見られるトンボを **785** 人
2種投稿せよ!
 - 湖沼や湿地で見られるトンボを ... **1,867** 人
2種投稿せよ!
 - 秋の風物詩! 赤とんぼを **2,753** 人
1種投稿せよ!!

※上記のプロット及び数値(発見した数、発見した種類)については、アプリ「Biome(バイオーム)」に日本全国から寄せられたトンボ目の報告のうち、調査期間内に撮影されたものを集計したものです。※分類群等の登録はアプリユーザー自身によるもののため、一部不確かなものが含まれている可能性があります。



©hikimiriver

見つけたトンボランキング



アキアカネ



シオカラトンボ



ウスバキトンボ



アオモンイトトンボ



マユタテアカネ

夏編で記録がなかったトンボたち



マサキリモントンボ

いしがじま、いりおもてしま国内では石垣島と西表島にのみ分布します。樹林に囲まれた溪流や周囲の溜まりに生息しています。



マダラヤンマ

本州中部以北に分布し、国内のヤンマ科で最も羽化時期が遅い1種で、秋に活動のピークを迎えます。



イリオモテミナミヤンマ

いりおもてしま西表島の固有種で、樹林に囲まれた流れの速い溪流に生息します。黒い翅の縁取りはメスの特徴です。

希少種ピックアップ



マダラナニワトンボ

赤とんぼの1種ですが、赤くならず黒化します。開発や水質汚濁により数を減らしています。



ベニイトトンボ

近年新たな生息地が増えています。水草の移動・放流などの人間の影響が指摘されています。



グンバイトンボ

ちゅうりゅういせき 中流域の清流、湧水のある池に生息します。河川改修や水質汚濁により数を減らしています。



コバネアオイトトンボ

分散する力が小さく、環境変化の影響を強く受けることから、急速に数を減らしています。

※各種の категорияについては、環境省第4次レッドリスト(2020)を参照しています。

見つけた赤とんぼランキング



アキアカネのイメージが強い「赤とんぼ」。いくつかの説がありますが、里地里山を代表し、日本全国の水田でよく見られる「アカネ属(アカトンボ属)」というグループのトンボたちを指すと言われています。今回のミッションでは、日本全国で見ることができ、その生活史が里地里山と特に密接に結びついている「12種」を対象としました。



アキアカネ

夏の間は高地など涼しい場所で過ごし、秋には平地に戻って産卵します。時には100キロを越えて移動することもある「旅するトンボ」です。



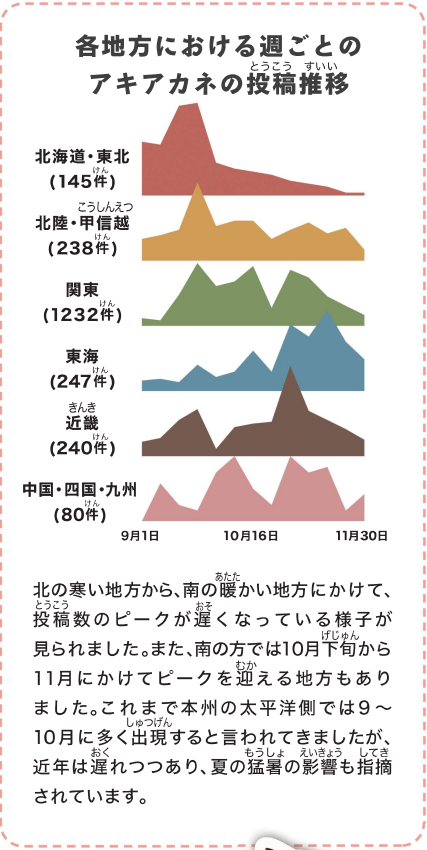
マユタテアカネ



ナツアカネ



ノシメトンボ



北の寒い地方から、南の暖かい地方にかけて、投稿数のピークが遅くなっている様子が見られました。また、南の方では10月下旬から11月にかけてピークを迎える地方もありました。これまで本州の太平洋側では9～10月に多く出現すると言われてきましたが、近年は遅れつつあり、夏の猛暑の影響も指摘されています。

絶滅の危機!?日本の赤とんぼたち

「赤とんぼ」は秋の田んぼや里山を印象づけるいきものとして広く親しまれてきました。その生活史は、里地里山に見られる水田、小川、ため池との結びつきが強いと言われています。しかし近年は、農業、耕作放棄、管理方法の変化などによってその多くが数を減らしつつあると言われています。



ミヤマアカネ

草地に囲まれた流れの緩やかな小川や用水路に生息します。農地整備や河川改修によって「赤とんぼ」の中でも特に早くから減少しています。

